

図書館の魅力

『みんな大好き 魔法の世界!』

子どもから大人まで幅広くご利用いただける憩いの場「図書館」。その魅力についてお伝えしていきます。12月のテーマコーナーは『みんな大好き 魔法の世界!』です。もしも魔法がつかえたら…。この冬は、おうちで魔法の世界をお楽しみください。(12月8日(水)から)

『魔法のレシピでスイーツフェアリー』

(堀直子/作 木村いこ/絵 あかね書房)



空想するのが大好きなみわは、「調理同好会」の危機に思わず「スイーツで、妖精の国を作ります!」と言ってしまいます。4人で力をあわせ、おいしいスイーツでみんなを幸せにできるのでしょうか…。

『世界魔法道具の図鑑』

(パッカラリオ/オリヴィエーリ/文 ソーマ/絵

小谷真理/日本語版監修 やまざき みず は 山崎瑞花/訳 西村書店)



白雪姫のリンゴ、孫悟空の如意棒、hogwarts魔法魔術学校の組分け帽子…。古今東西の物語に出てくる、美しく楽しい魔法道具をオールカラーイラストで一挙公開。

【紹介文は株式会社図書館流通センターの書誌詳細より引用】

誰もが一度は夢見た魔法の世界。空を飛んだり、怪物と戦ったり、自分の姿を変えたり…。魔法の本を読んで、ときどきわくわくの魔法の世界をのぞいてみましょう。



モータースポーツお宝探検隊 vol.8

今回ご紹介するのは、楠本邦治さんと貴彦さん親子です。車をうまく運転することへの興味があり、30代の頃からサーキット走行やレース観戦に親しんでいた邦治さん。いつしか、ドリフト走行(車体を横滑りさせながらコントロールする走行方法)の名手として人気を博した土屋圭市選手つちや けいいちの大ファンに。鈴鹿サーキットのパドックで2時間待ってサインしてもらったレプリカヘルメットは、邦治さんの自慢の品です。

そんな父の影響を受けた貴彦さんも、強制されることもなく自然と車好きに。サーキットで愛車を走行させながら、車の基本的な動きの理解と安全に走るための技術を身に付けました。その走行で使用する貴彦さんのグローブにも、土屋選手のサインが入っています。

「先週も鈴鹿ハイツの自宅から歩いてレース観戦に行きました」と笑顔で話す楠本さん親子。大切なサイン入りグッズもさることながら、車とサーキットが深めた家族の絆こそが「お宝」なのかもしれません。



▲貴彦さんの愛車を前に笑顔の楠本さん親子

■中野能成(鈴鹿モータースポーツ友の会 事務局)

キーボード



子どものころ、最も苦手なものが作文でした。夏休みの宿題で最後に残るのは、いつも読書感想文。泣きながら、8月31日を迎えていた記憶があります。

わが子が小学生になり驚いたことは、ほぼ毎週のように作文の宿題があることです。自分自身が子どもだったら、地獄の週末になっていたに違いありません。ただ、作文を書きやすいように配慮されていて、“先生あのね”から書き出せばどんな内容でも大丈夫。週末にあった出来事などを報告します。私や妻がチェックをして提出するのですが、書くごとに少しずつ上手くなっていくのが分かりました。

今回の特集では、人権作文を紹介しました。一人一人が人権について考え、その思いを伝えようと、自らの言葉で記しています。これもきっと日々の積み重ねがあったからでしょう。4・5ページに掲載した三人の作文。ぜひご一読ください。(一)